

ニュースから考える

気象庁の発表によりますと今年の札幌の桜の開花は4月25日(平年5月3日)で平年より早めです。我が家でも手稲区民としてGWは前田森



林公園に花見に行こうと考えています。

さて、花見と言えば・・思い浮かぶのはBBQ・・余市から引越してから3年、久しぶりのBBQ~とワクワクしな

がらコンロや炭などの準備に思いを巡らせてい

ます。しかし、一番肝心のお肉屋さんが余市や小樽では「あそこここで~」と数件思い浮かぶのに手稲では残念ながらお見かけした記憶がありません。

確かにここ数年、魚屋さんや八百屋さんでの買い物は記憶がありますがお肉屋さんは・・。

とは言ってもBBQの時だけはお肉屋さんでというのがわが家のスタイル、お肉は小樽まで買いに行こうと考えていますが・・札幌で美味しいお肉屋さんを知っていたら教えて下さい!

1分でわかる業務カイゼン

「自分の仕事がなくなる？」

量販店の進出で町のお店が淘汰され・・ネット通販が量販店を淘汰と・・めまぐるしく変化するのが商いです。今月は人から仕事を奪おうとする「？」が活躍する未来の話を考えて見ましょう。

英オックスフォード大学でAI(人工知能)などの研究を行うオズボーン准教授はコンピューター技術の発達によって今後10~20年程度で約47%の仕事が自動化され・・人間の仕事の約半分が機械に奪われる」という衝撃的な論文を発表しました。

たしかに、最近の技術革新は著しく、自動車の自動ブレーキが標準装備となり自動運転も実現間近な技術です。近い将来、バスやトラック、タクシーの運転手さんの代わりになる事も可能!？。



スーパーやコンビニ・ネット通販などの繁栄の陰で町のお店がなくなったように、コンピューター技術の発達で人間の仕事が機械に奪われる、そんな世の中がやって来るのかも知れません。

「税理士事務所も不要に・・」

論文で指摘されているAI技術の発達により「90%の確率で消えてなくなる仕事」には娯楽施設のチケットもぎり係や案内人、ホテルの受付係などなんとなく理解できる仕事もあります。

しかし、当事務所にとって衝撃的なのは「税務申告書の作成者」や「データ入力者」が消えると

指摘されている点です。このままではコンピューターに仕事を奪われてしまう・・と職員一同他人事ではない危機感を持ってしまいます。そこで、当事務所のみならず皆さんも機械に負け



ないためにはどうしたら良いかを考えて見ましょう。

「生き残る仕事は・・・」

論文の「人口知能に変わられる主な仕事」と「生き残る仕事」の一例をご覧ください。

経営者の皆さんは機械では代替不可能なようですが・・・「生き残る仕事」ではお医者さんや看護師さん、学校の先生、カウンセラーなど人との触れ合いが必要な仕事はどうやら生き残れそうです。

一覧表では消えてなくなるはずのタクシー運転手ですが現在、あるタクシー会社は「人とのふれあい」で業績を伸ばしています。

どうやらそこにヒントがありそうです。これからの時代は「人とのふれあい」を大切にする・・・これが生き残りのキーワードなのかも知れません。

そこで、当事務所もデジタルによる業務効率アップとアナログ的な親切丁寧さでお客様から信頼されるよう初心に帰り頑張ります。皆さんも時代や技術革新に淘汰されないよう世の中の変化に注目です。

人工知能に代わられる主な仕事	生き残る仕事		
電話営業員	タクシー運転手	ソーシャルワーカー	小学校の先生
手続い紙係	法律事務所の事務員、秘書	聴覚訓練士	心理カウンセラー
不動産ブローカー	レジ係	作業療法士	人事マネージャー
税務申告書作成者	クレジットカードの審査員	口腔外科医	コンピュータシステムアナリスト
経理担当者	小売/営業員	内科医	学芸員
データ入力者	医療事務員	栄養士	看護師
保険契約の審査員	モデル	外科医	聖職者
不動産仲介業者	コールセンターのオペレーター	振付師	マーケティング責任者
ローン審査員	飛び込み営業員	セールスエンジニア	経営者
銀行窓口係	保険営業員		

※英オックスフォード大学、マイケル・A・オズボーン准教授の論文「未来の雇用」で示された職種から抜粋。

ちなみに、今回のお話はあくまで学者の仮説です。真実は、20年後には解かります・・・是非、お楽しみに～！。

事務所からのお知らせ

会社の健康診断として経営分析を行っていますので担当者にお尋ね下さい。また、お知り合いの経営者でお悩みの方がおられましたらお気軽にご相談ください。

今月の経営数値 : 保険料 (無駄な保険に入っていないか?)



今月のことば

すべて物を励むには競うということが必要であって、
競うから励みが生ずるのである。 渋沢 栄一

編集後記:

お陰様で当事務所もお客様が順調に増えております。急速な拡大により以前のようなサービスが出来ずご迷惑をお掛けしている場面もあると思います。本当に申し訳ありません。

新たなスタッフの採用も決まり業務の見直し等で早急な体制づくりを行って参ります。また、研修のため新人スタッフを同行する場面も増えますのでご協力の程、宜しくお願い致します。(寿)

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合 (TKCが証明するデータを使用しています)

最近1年間: 72.2%

(国税局の発表によると法人のうち黒字割合は33.6%(26年4月~27年3月)です)